

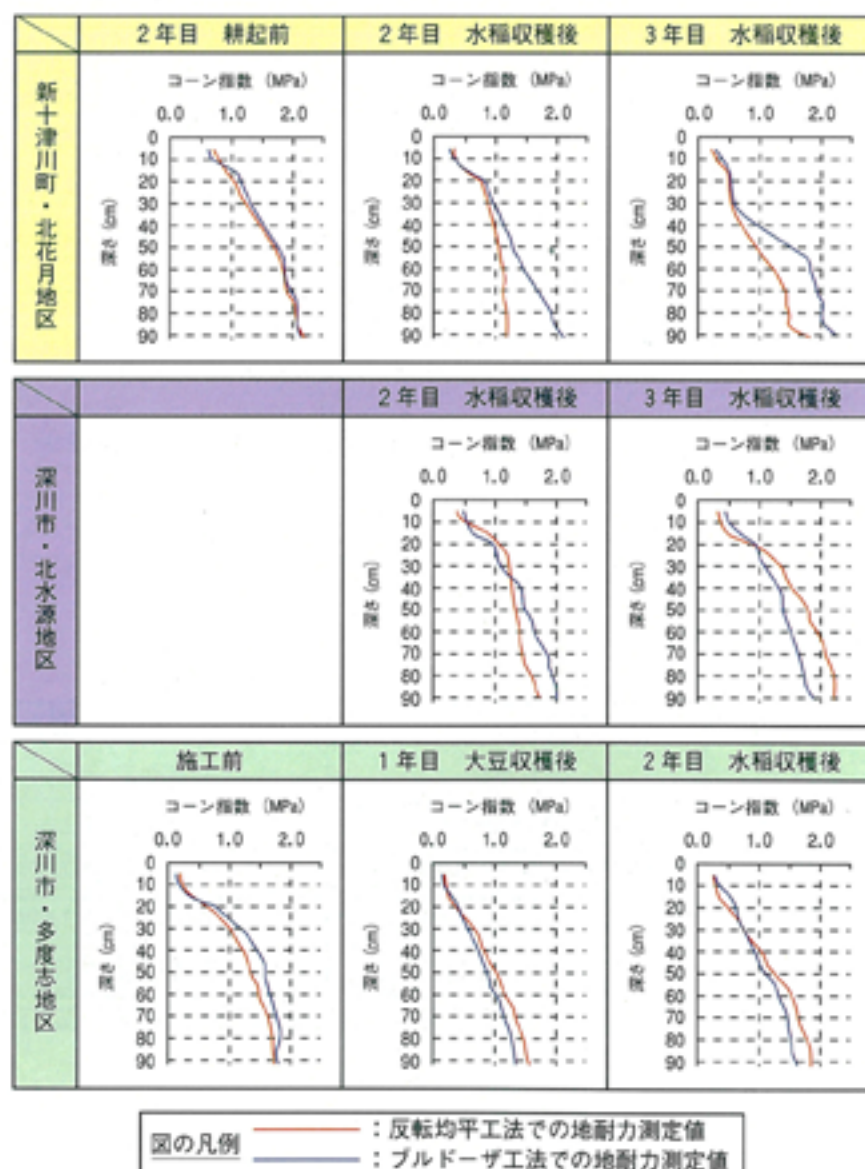
## 技術データ3.地耐力の経年変化

反転均平工法を実施した北空知管内のほ場において、ほ場の地耐力を測定し、施工後の地耐力の経年変化について整理しました（図-1）。

地耐力は、ほ場の深さ方向の貫入抵抗を表した数値（コーン指数）のことで、主に作業機械の走行性を判断するために利用されます。

調査を実施した各ほ場とも、工法に関係なく、深さ30～40cmまでの平均地耐力は同じような値となっています。一方、下層での地耐力に差がみられる場合もありますが、これは従来の心土であることから、工法の違いがもたらす差ではありません。

このように、施工後1年以上が経過し、ほ場での作付も変化しているなかで、工法間での地耐力の差はみられませんでした。



※深さ40cm以下は現況の心土に相当するため、工法による差ではありません。

図-1 代表ほ場における地耐力調査結果

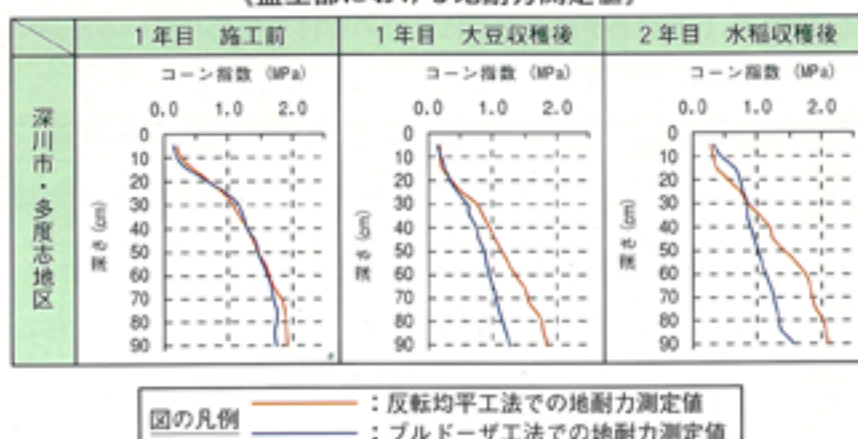
深川市・多度志地区における盛土部での地耐力調査結果を整理しました。

工法に関係なく、深さ30cmまでの平均地耐力は同じような値となっています。

当初、反転均平工法では基盤面（心土上面）を作業機械が直接走行しないことから、特に盛土部の基盤の安定性悪化に対する懸念がありました。

しかし、今回の調査結果から、反転均平工法の盛土部地耐力は従来工法（ブルドーザ工法）の盛土部と同程度の値を示したことから、基盤の安定性は確保されていると考えられます。

〈盛土部における地耐力測定値〉



※深さ40cm以下は現況の心土に相当するため、工法による差ではありません。

図-2 深川市・多度志地区における盛土部での地耐力調査結果

表-1 地耐力の指標値（0～15cmの平均値）

走行性判定	トラクタ(耕うん)	コンバイン(収穫)
	ゴム車輪	セミクローラ
走行容易	0.39MPa以上	0.29MPa以上
走行やや難	0.29MPa～0.39MPa	0.20MPa～0.29MPa
走行難	0.20MPa～0.29MPa	0.10MPa～0.20MPa
走行不能	0.20MPa以下	0.10MPa以下

※農業土木学会：土地改良事業計画設計基準 計画 畑整備（水田）p.209（2000）より引用